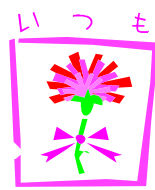


被災地と、みんなを結ぶ

2013 年 9 月 25 日 No.17

つながろう！絆・連合



いつもありがとう

発行：連合（総合組織局・連帯活動局）

電話 03-5295-0513 FAX 03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp

日本労働組合総連合会（連合）<http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

宮古市
田老地区を
訪ねて

大震災から2年半たった岩手 ～大震災を風化させないで！ 多くの人に来てもらいたい！～

震災から2年半経過した東北三県の現状および現地の声をお聞きするため、連合本部は9月11～12日、連合岩手および県北地協を訪問しました。（写真右下）

さらに宮古市議会議員にも合流いただき、岩手県宮古市田老地区を訪問しました。

<岩手の声>

- 東京でのオリンピック開催は嬉しいことだが、資材高騰や人材不足につながるのではないかと、とても心配です。
- 月命日は、今でも行方不明の方の捜索をしています。真冬でも真夏でも、警察や海上保安庁の人たちが海岸線を中心に懸命に探しています。そのことを全国の人に知っていただきたい。
- 高台移転に関して用地買収は順調ですが、高齢者の方などの住宅再建は困難です。
- 仮設にいる人は心身共にとても疲れていて、心のケアが必要。また子どもたちのサポートも重要です。
- 大震災を風化させないで欲しい。多くの人に来ていただきたい。



宮古市田老地区



ぽつり残されたホテル
“物言わぬ語り部”として
残したいとの声も！

壊れた堤防。この周りには家々が立ち並び、人々の営みがあった・・・

この田老地区は過去にも大きな津波に襲われ、多くの尊い命を亡くしていたため、堤防を二重に構え、防災システムも完備していました。この堤防のおかげで津波の第一波から逃れることができましたが、しかしこの堤防によって、人々は“逃げなくてもいい町”と過信してしまいました。「残されたホテル(写真前頁右)を『物言わぬ語り部』として資料館にしたい」と同行した市議や、宮古観光協会の「学ぶ防災ガイド」の方が、熱い思いを語ってくれました。

皆さんもぜひ一度、宮古市田老地区へ足を運んでください！



連合、復興庁へ要請！

9月19日、連合本部は、復興庁へ「2014年度 連合の重点政策」の「東日本大震災からの復興・再生の着実な推進」について要請をしました。

中島事務次官からは、復興に関しての進捗状況の説明に加え、「建設などのハード面においては復興庁で対応できるが、高齢者や子どもたちのケアなどのソフト面については、民間のサポートが必要であり協力して進めていきたい」とし、さらに福島県について「汚染に伴う避難指示区域等の順次見直しを



南雲事務局長(左)から
中島事務次官(右)へ手交



行っている。元の居住地域に戻る人、物理的な理由や避難地域に定着するなど戻れない人もいるが、各々の状況に応じた対応が必要だと認識している。放射線量について、人それぞれの思いやとらえ方があるが、正しい情報を伝えることや、丁寧な説明、対応を心

かけていきたい」とし、要請内容を省内で検討すると述べました。

連合は今後も復興・再生に向け着実に推進していくよう関係各所へ訴えていきます。

復興大臣 根本 匠 様

要請書

2014年度連合の重点政策

～東日本大震災からの復興・再生の着実な推進～

1. 地域全体の復興と雇用創出を視野に入れた復興計画の実現、地域経済を担う中小企業への支援
2. 防災性・環境性能が高く、社会保障サービスの提供体制が確保された「ひとが中心のまちづくり」の実現
3. 事故由来放射性物質への適切な対応
4. 農林水産業の復興・再生と放射性物質からの食の安全・安心の確保
5. 消費者保護の強化
6. 安心して学び、遊ぶことができる教育環境の整備

一部抜粋

以上

本ニュースは、全国の皆さんの声をベースに発行していきます。「こんな取り組みしているよ」「今、現地はこうなっている」などの声や写真をぜひお寄せください。お待ちしております！

連合連帯活動局・西野 TEL03-5295-0513 FAX03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp